

重点1 毎日の授業の充実 / 8A 体験活動（自然教室の実施状況）

ねらい

自然教室は、野外活動を通して自然にふれる楽しさを味わうとともに、集団生活を通して人間的なふれ合いを深め、相互の理解と信頼を高めることを目的としています。

この事業は、公害対策の一環としてスタートした「みどりの学校」を母体として、昭和47年度に小学校6校の6年生 587名が参加して始まりました。昭和61年度からは、文部省自然教室推進事業を含めた現行の事業が始まり、以後、基本的には、市内小・中学校各1学年を対象に現在の形で実施してきました。平成10年度からはすべての小・中学校が市の単独事業となり、本年度で13年目になります。

現状と課題

○ 平成22年度の実施状況

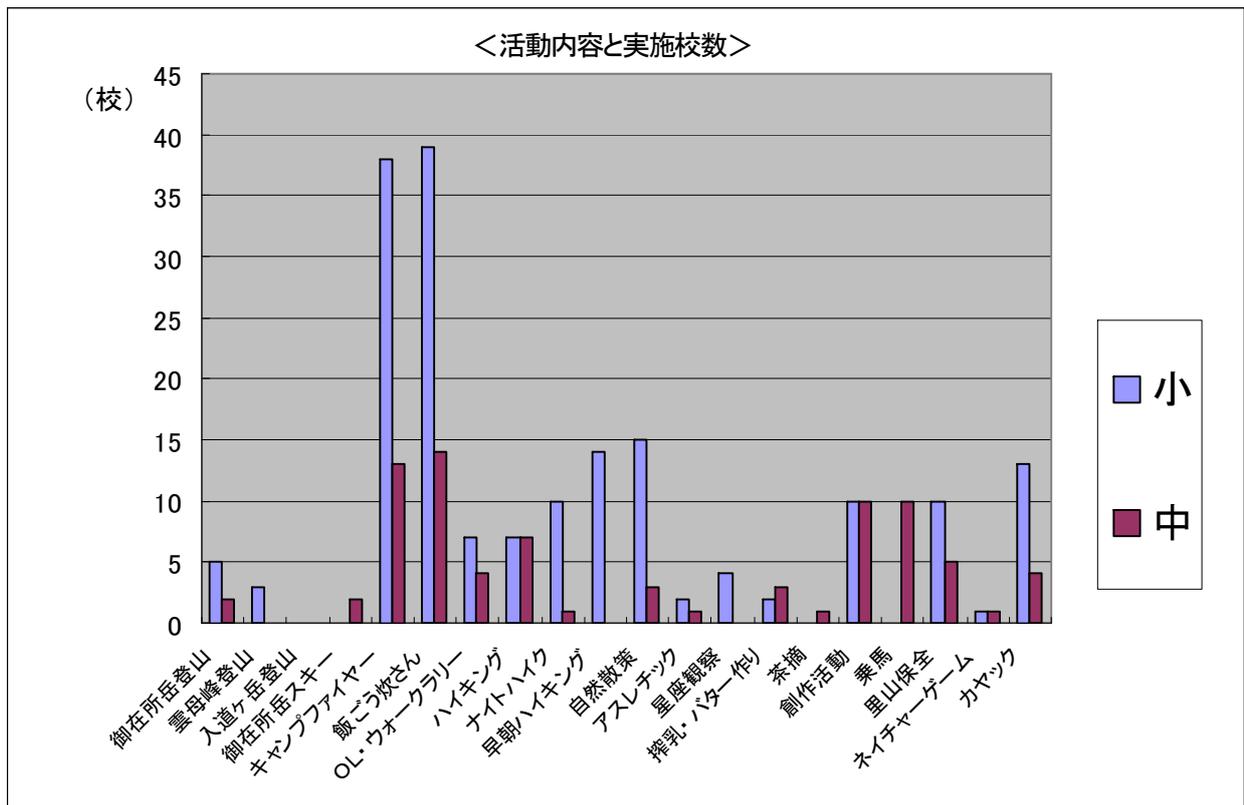
<施設利用状況>

利用施設名	小学校	中学校
四日市市少年自然の家	40校 2991名 (5/18~12/3)	17校 4004名(2泊) (4/20~2/18)
鈴鹿青少年センター		4校 1912名(2泊) (5/30~6/10)
国立乗鞍青年の家		1校 350名(2泊) (2/8~2/10)

※中学校は1泊を1名でカウント

○ 平成22年度の実施状況

(1) 主な活動状況（実施校数）



第2章 「めざす子どもの姿」を実現するための基本

- ・ 40校すべての小学校と17校の中学校、計57校が四日市市少年自然の家を利用し実施しました。
- ・ 中学校では、生徒数（収容能力）の関係等で、4校が鈴鹿青少年センター、1校が国立乗鞍青年の家を利用しました。
- ・ 中学校では、集団づくり、仲間づくりに重点がおかれることから、今年度から全ての学校で、1年生での実施となりました。
- ・ 小・中学校とも、ほとんどの学校が飯ごう炊さんやキャンプファイヤー等、仲間と協力して一つのものをつくり上げる活動を取り入れています。
- ・ 小・中学校では、里山保全、自然散策、ハイキング、星座観察、ネイチャーゲーム、オリエンテーリング、カヤック体験等の自然と親しむ活動が多く盛り込まれています。登山を実施した学校は、小学校6校、中学校1校の計7校でした。
- ・ 中学校では7校（四日市市少年自然の家：6校、国立乗鞍青年の家：1校）が冬季にスキーを中心とした活動を行いました。

(2) 主な成果と課題

- ・ 小学校では、「ウォークラリーやナイトハイクで山を歩きながら、自然に触れその美しさを感じ取るとともに、大切に守り育てていこうとする環境への意識を持たせることができた」「ウォークラリーの課題にネイチャービンゴを取り入れたことで、木々の種類を知ったり、いろいろな形の葉を集めたりしながら、自然とふれ合うことの楽しさを味わうことができた」「五感を使って自然の様子を感じ取っている子どもが多く、ナイトハイクで歩いた森の様子との違いについて作文に綴っていた」「不安定な天候であったが、ハイキング、川遊び、キャンプファイヤー、野外炊事など自然の中で活動し、そこでしか得られない達成感や満足感は今後の生活に役立つものとなったと思う」などの多くの学習の成果の報告がありました。
- ・ 中学校では、「集団生活を通じて、ルールを守ることや時間に遅れないこと、話を聞く態度など規律面や安全面での指導を徹底することができた。また仲間づくりの意識づけをすることができた」「実行委員を中心として意欲的な活動であった。集団宿泊活動を通して、教員とのつながりや生徒同士のつながりが深まった」「御在所スキー場での実習では、昨年度に引き続き、四日市スキー協会並びに三重県スキー連盟の協力を得て、充実した活動が行われた。ほとんどの生徒が初めてのスキーであり、うまくできないことでも、最後まであきらめずに全員が取り組むことができ、お互いのよい所を発見することができた」等、発達段階に応じた成果がありました。
- ・ 「きめ細かな打ち合わせがもっと必要だった」「時間的なゆとりのある計画を立てるべきであった」等、事前指導や計画について課題があげられています。

今後の方向性

- 自然教室で、どのような力を子どもにつけさせたいのかを明らかにし、発達段階や子どもの実態に応じた、より有効な活動内容等を考慮していく必要があります。
- 自然教室を通して学んだことを学校生活、教科学習、道徳、総合的な学習の時間（環境学習等）に関連付けて発展・定着させていくことが大切です。
- 雨天時の自然体験活動の再考と、冬季実施校も、スキー実習だけでなく、自然観察、散策等の体験活動を考えていく必要があります。
- 自然教室の指導・企画・実施の面において教員の研修を深めるとともに、小中の交流・小規模校同士の連携等、小中学校の連続性や系統性を考慮した企画にしていくことも大切です。